

# 姫路市医師会報

○「生かさず殺さず」これが日本の医療？

No. 328 平成19年1月1日発行：視点

療養病床の現実をご存じでしょうか。

療養病床に入院してくる方の多くが、急性期病院からの転院です。自宅療養をしていて病状が悪くなれば、たいていは急性期病院への入院になるでしょうから、診療所の先生方から、直接、療養病床にご紹介いただくことは少ないかもしれません。日本医師会、県医師会、そして姫路市医師会でも療養病床の問題は取り上げていただき、議論されてはいますが、多くの会員の先生方には馴染みが薄いと思います。

少し説明させていただきます。4月の診療報酬改定で療養病床の仕組みが大きく変わりました。患者さんを医療区分1、2、3に分けるところから始まります。

医療区分3は医療度が高く、酸素吸入や高カロリー輸液を行っている方などです。医療区分2も「おかみ」が医療の必要があると認めていただける方、例えば肺炎の治療をしている、脱水がある、3時間に1回以上喀痰吸引が必要な方などです。合計37種類の病名や病状で区分されています。そしてこれに該当しない方は、すべて医療区分1とされます。

医療区分1とは医療の必要性がない社会的入院と「おかみ」がお決めになった方々です。病院にいる必要はないのでペナルティーがあります。病院には入院基本料の減額がなされます。なんと、老人ホームより低く抑えられているのです。高齢の患者さんには、家でいても食事もするし光熱費もかかるということで、食費の負担が増額になり、新たに居住費の負担が追加され、保険診療外として月額3万円ほど支払いが増えます。病院としては、このようなことにより医療区分1となる方には退院をせまり、また、受け入れを拒むことになってしまいます。また、負担増がつらくて、少々無理な在宅療養を選ばれる患者さんもおられます。

問題は医療区分の決め方にあります。私どもの医療が、わずか37の区分で表現されてしまいます。まとめて書けばA4用紙1枚に収まります。一度目を通してみてください。これで医療を取り巻く様々な問題に対処できるわけではありません。

肝硬変の末期の方がいます。腹水がたまっていて、頻繁に肝性脳症を発症しています。点滴、注射で利尿剤、アミノ酸製剤の投与を行っています。この状態のままでは、医療区分2、3の条件のいずれにも該当しません。「おかみ」

は社会的入院と判断します。したがって、療養病床での受け入れも困難ですし、急性期病院に入院してもすぐに退院の指示が出ます。もう少し悪くなって意識障害が出て、24時間点滴の適応になると、とたんに医療区分3になり、受け入れやすくなります。病状が改善し経口摂取が可能となり24時間点滴が不要となると医療区分1になり、入院の継続が困難になります。高齢の方の場合は自己負担も増えます。意識がなくなるまで悪くならないと入院できないし、よくなれば続けて入院できません。まさに「生かさず、殺さず」です。このような場合、長くみさせていただいている方、あるいはご紹介を受けた方の場合に、断れるわけもなく、老人ホームより安い入院基本料で対応しています。当然、高価な薬剤も「まるめ」です。

脳梗塞の後遺症で経管栄養、全介助の方の場合、たいてい「喀痰吸引が3時間に1回以上、1日に8回以上必要」で、医療区分2になります。それでも、この条件がない患者さんもおられるわけで、その場合は区分1となり入院の継続が困難です。とても在宅では無理で、施設、たいていは特別養護老人ホームへの入所を相談するわけですが、胃瘻があったり、インスリン治療が必要な場合は受け入れしていただけないことがあります。MRSAの保菌状態にあれば絶望的です。受け入れ可能としても長期の待機が必要です。無理な場合は、介護療養病床にお願いするわけですが、これも費用が高くなること、病床にも限りがあること、数年後に病床が消失することなど、いろいろ問題があります。

「寝たきり」で他の条件がない方の場合、褥瘡があれば不謹慎ですがホッとします。褥瘡があれば区分2になります。入院を続けていただけますし、患者さんの負担も少なく済みます。当院では、看護師が中心になって褥瘡チームを作っています。あちこちの勉強会に行って、新しい処置を工夫して、がんばってくれていて、成果も上がっています。褥瘡が治ると区分1に戻ってしまいます。悪化しない褥瘡が続いている方がお互いの幸せになります。やはり「生かさず殺さず」です。「治さず、悪くせず」です。時代劇の悪代官が頭の中をウロウロしています。

このような事例はいくらでもあります。今まで学んだ医学の知識も、長年の医療の経験も全く関係なく、「おかみ」の作った37の区分を後生大事に眺めながら、入院の受け入れや、退院の相談を行っている、私は何をやっているんだろうという情けない気持ちと、せっかく利用していただいている患者さんに申し訳ないとの気持ちでいっぱいになります。元気も出てきません。そして、最終的にしわ寄せがくるのはお年寄りの方々です。つまり、戦後の貧しい時代を生き抜き、子供を育て、この国の繁栄を築いてきていただいたの方々です。年老いて、病気になって動けなくなってしまうと、「おかみ」から受けるのはこのような仕打ちです。なぜこうなってしまったのでしょうか。豊かなはずの日

本はどこへ消えてしまったのでしょうか。こんな事でいいのでしょうか。